

接木にも実がなりました

ブルーベリーは相変わらず早生のハイブッシュ系は鳥のエサになっているようですが、晩生のラビットアイ系は樹も大きくなり、鳥も食べきれないのか結構たくさん収穫ができました。

2~3年前ラビットアイにハイ



たわわに実ったラビットアイ系

ブッシュ(早生のスパータン)を接木(高接ぎ)した樹に実がなりました。大粒で見栄えもよく美味しいです。しかし、この時期はぶどうの作業がいちばん忙しくなかなか手



接木になった果実

がまわりません。これからはもっと段取りをよくして、しっかり収穫しよう!と思うのですが……。

自然薯はちょっと苦戦

今年はぶどうの予想外のバタバタで自然薯畑にあまり行くことが出来ず、こまめに茎の誘引が出来なかったからか、今年の種イモがいつもより小さいのが原因か、今年は茎



ちょっと寂しい自然薯畑

葉の伸びがいまいち。今年初めて試す切りイモ種(成品のイモを切ったもの)も発芽が半分もなくちょっと寂しいですね。冬まではまだ時間があるので、順調に育ててほしいものです。

この夏、娘は貴重な体験をさせていただきました。2泊3日で世界遺産に登録された、あの富士山に登ってきたのです。私たちが暮らす吉備中央町では、合併前の加茂川町時代に町内の小学6年生を日本一の富士山に挑戦させる《小学生富士登山チャレンジ事業》がスタート。1990年、全国の市町村に1億円を交付したふるさと創成事業を活用したもので、加茂川町は子供たちの成長にその資金を託してくれました。以来23年間ずっと富士山に子供たちを送り出しています。今年も町内10校の小学6年生78人、リーダーや救護など49人

(地域のボランティアの方々)、計127名が参加しました。

ぶどうの架かけに追われていた私たちは、インターネットで子供たちの様子を時々見て応援していました。娘の後日談によると富士登山はかなり過酷だったようです。山頂に

むけて午前1時に山小屋を

農園かあさんのよもやま話



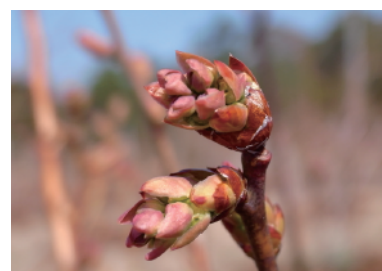
出発。真っ暗な道を登るにつれて酸素が薄くなり高山病(山酔いで頭痛や吐き気がする)で、リタイアする子供が続出。さらに真冬なみの寒さと眠たさも加わり、9合目で娘も限界だったとか。でも「なにが何でも頂上に行ってやる」と心に誓い、3976mのてっぺんで、まっ赤な御来光を拝めたようです。どんなにしんどくても、あきらめずに頑張り抜けた、この体験は大きな自信になったでしょう。素敵なチャレンジをさせてくれた、おが町がまた好きになりました。(残念ながら娘は山ガールにはならないようです。トホホ)



道端で咲く彼岸花



ぶどうの樹液流動



開き始めたブルーベリーの花芽

吉備高原 あらき農園

〒709-2412 岡山県加賀郡吉備中央町円城316 電話/ファクス 0867-34-1669 メール farm@arakinouen.com

<http://arakinouen.com>